

第214回一関市教育委員会定例会 会議録

1 開催日時

開会 令2年12月23日（水）午後1時30分

閉会 令2年12月23日（水）午後2時40分

2 会議の場所

一関市役所議会第1委員会室

3 出席者

教育長 小菅正晴

委員 千葉和夫

委員 佐藤一伯

委員 伊藤一志

委員 桂島加奈子

4 会議に出席した関係者及び職員

教育部長	菅原春彦
一関図書館長	黒川俊之
教育部次長兼教育総務課長	及川和也
教育部次長兼学校教育課長	瀧野澤 徹
教育部次長兼文化財課長兼骨寺荘園室長	千葉 浩
一関市博物館次長	佐藤光俊
いきがづくり課長	伊東吉光
教育総務課長補佐兼庶務係長	千葉由紀（記録）

5 議題及び議決事項

なし

6 報告

- (1) 第80回一関市議会定例会（一般質問）の状況について
- (2) 行事報告及び1月行事予定について

7 その他

- (1) 令和2年度学校教育行政の重点について（健やかな体）
- (2) 一関市教育振興基本計画後期事業計画の策定について
- (3) 一関市立図書館振興計画後期サービス計画の策定について
- (4) その他

8 会議の議事

○**教育長** 委員は全員出席です。定足数に達しておりますので、ただいまから第214回一関市教育委員会定例会を始めます。

2番の報告に入ります

報告(1) 第80回一関市議会定例会（一般質問）の状況について

○**教育長** (1)、第80回一関市議会定例会一般質問の状況につきまして、事務局から、報告願います。

教育部長。

○**教育部長** 令和2年12月に招集されました第80回一関市議会定例会一般質問の状況について説明させていただきます。

(説明)

○**教育長** それでは、ただいまの議会の定例会一般質問の答弁等につきまして、何かご質問あればお願いします。

よろしいでしょうか。

部活動の部分は、この間の総合教育会議の中でも話題になった、まさにその部分でありました。一番最後に市長にも、ことについて、同じ議員から市長はどのように考えているのかということの質問があり、市長からは、この間総合教育会議でそういうのを取り上げて、今後、地域ということを見ながら検討していくことになると思うと、そういう答弁も市長はしております。

よろしいですか。

それでは次に入ります。

報告(2) 行事報告及び1月行事予定について

○**教育長** 行事報告及び1月行事予定についてであります。

私から行事報告をさせていただきます。

前回は、11月20日が教育委員会定例会でしたので、第35週から説明させていただきます。

11月25日、学校公開研究会が千厩小学校でありましたが、算数の公開でありました。参加者は、今回はコロナの関係で限定して、千厩中学校、千厩小学校が主な参加者でありましたが、委員さん方にも参加していただきましてありがとうございました。

人数制限がある中でも、学校にとっては非常に活発な、これに向けての取り組みを行うことができたということでありました。

26日、幼・小・中・高・特・高専・大学校運営推進協議会の教育講演会がありました。これは元IBCのアナウンサーの西條ユキコさんという方をお呼びしまして、「子どものやる気を引き出す支援」ということで、アナウンサー時代からご自分で勉強されて、交流分析という心理学の手法を使いながら様々コミュニケーション能力を高めるための、ご自分での研究もなさっていたようで、実践もなさっているようです。その方の講演でありました。コロナの状況ありましたので、それぞれの校長さん方だけの参加でありましたが、座席も離しながら実施したところでありました。

27日、今年度最終の学校訪問でありましたが、興田中学校で予定どおり実施することができました。委員さん方もありがとうございました。

12月1日、教育民生常任委員会がありました。これは議会前でありましたが、様々な案件について報告が必要ということで、この委員会でもって報告させていただきました。内容的には五つほどありましたが、一番大きいのは大東地域の中学校の統合について、教育民生常任委員の方々に説明をさせていただきました。

それから二つ目は、これは新しい部分ですが、一関地域の関が丘地区の通学について、学区のことについて報告してくれということで説明させていただきました。これはどういう経緯かということ、議員と市民の懇談会の中で、関が丘地区の学区が、一関小学校、南小学校、それから一関中学校、桜町中学校というふうに分かれているのですが、同じ行政区なのに分かれているのは不便じゃないかと、改善できないのかという質問があったようです。そのことについて議員さん方からは、教育委員会の方で現状を知らせて欲しいということで説明させていただきました。教育総務課長が昔の経緯も知っていたので、そこも説明させていただきましたが、人数が非常に多い時代がありまして、それはある程度、平準化するための部分として、関が丘団地の中に、その学区の境目を作ったという経緯があったようです。全部で6行政区まであるのですが、3区と4区が一関中学校、南小学校に行って、あと1、2、5、6区は桜町中学校と一関小学校の方に行くという形になっております。ただ、現在は人数がどんどん少なくなって、現在南小学校と一関中学校の方に行っているのは、全部で41名。それから一関小学校と桜町中学校に行っているのは、全

部で70名という状況であります。

これまでの経緯もあるので、いきなりそれをどちらかに寄せるといふことの難しさもあるので、今後時間をかけて、地域の方からも話を聞き、状況も把握しながら、時間をかけてどういう方向がいいのかを、再度見ていくというふうな答弁にさせていただきました。前にもそういう話はあったのですが、非常にやはり難しいナーバスな問題でありますので、そして学校規模にも影響しますので、簡単にはいかない状況ですが、時間をかけてやりたいということの説明させていただきました。

それから、ちょっと長くなって申し訳ありません。

三つ目は、学校再編についての教育委員会としての考え、或いは状況把握をどういふふうに考えているのかということ、説明させていただきました。先ほど議会での一般質問の答弁に説明したような内容です。

あとは、今日この後出ますが、四つ目と五つ目は教育振興基本計画の素案について、それから図書館振興計画の素案について説明させていただきました。

合計五つのことについて、教育民生常任委員の方々に説明させていただいたところがあります。

12月3日、第1回ICT推進共同実施の研修会を行いました。1人1台タブレットが入るといふことに向けての第1回目の研修会でありましたが、これは、全部で45人の学校長や副校長に東山の市民センターに集まっておいただきまして、それをAからDの四つのグループにグルーピングしまして、そこが今後いろんなICT関係の学習を進めたり、連携を進める母体にするといふことで、まず組織化を行いまして、そのあとに、実際に業者にも関わっておいただいて、タブレットに入れるソフトを使いながら、研修を行ったところがあります。非常に有意義な研修だったといふふうに思います。今後こういう研修が多くなっていくといふことでもあります。

12月4日、総合教育会議がありました。部活動についてであります、大変ありがとうございました。合同部活動、地域部活動のことについて話題にさせていただきました。

12月5日、東山小学校の落成式がありました。委員さん方も参加しておいただきまして、大変ありがとうございました。子どもたちもコロナ禍であります、立派な姿勢で参加しておいただきました。

12月7日、食育講演会がありました。これは市内の学校の先生方が対象でありましたが、講演会と事例発表という二本立てで行いまして、講演会の方は、野菜ソムリエの千田広子さんという、野菜ソムリエ上級プロという資格を持っているそうですが、郷土愛を育む食育といふことで講演をいただきました。大変興味深い講演でありましたし、事例発表は、摺沢幼稚園、千厩小学校、舞川中学校の先生方に発表しておいただいたところ、です。

12月8日から、市議会の本会議がスタートして、先ほどの一般質問まで含めて、最終の18日まで続いたところであります。

それから、12月9日からは校長面談ということで、人事に関するヒアリングを44校すべての校長さん方に、時間を区切ってヒアリングを行い、今後の人事の資料としていくということを毎年やっているわけですが、教育事務所にも来ていただきまして、人事の方の最終的な執行者でありますので、参加していただきまして行っているところです。これは12月の25日まで続く予定であります。いつもはこの市役所の中でやっておりますが、人数がちょっと多くて密になるということで、東山支所を借りて行っているところであります。

12月15日、一関中央ロータリークラブから、会長さん外3名が見えられまして、一関地域の小学校10校に、40冊の本を寄贈していただきました。内容は渋沢栄一の「論語と算盤（そろばん）」という、そういう著書であります。これは子供版にして、しかも現代語訳にしたもので、非常にわかりやすいものでありました。論語、人の生き方ということと、算盤（そろばん）、経済観念ということを融合させた考え方が今後の人間育成には大事だというそういう内容の本でありましたが、一関地域の各学校に送付する予定であります。

行事報告については以上です。

それでは行事報告について何かご質問ありますか。

○教育長 千葉委員。

○千葉委員 先ほどの関が丘地区の学区の件ですが、難しい問題がいっぱいあるということで、時間をかけて研究、検討していくという回答だったようですが、本当に難しい問題だと思います。1年以内に動くというような予定はあるのかどうか。

○教育長 教育総務課長。

○教育総務課長 関が丘は、関が丘団地に地域協働体というのが設立になって、そちらからの意見でしたが、具体的にPTAの方々がどう考えているのかというところをまず確認しまして、それでそのPTAの方の意向を踏まえて、検討に入りたいというふうに考えております。

場所は、距離的には、一関小学校、桜町中学校のほうが近い距離になっておりますので、もし、一つの学区にするとすると、一関小学校、桜町中学校という学区にするのが順当な考え方なんですけど、ただ、南小学校、一関中学校のほうが、児童生徒数がかなり減少してきておりますので、その関が丘地区の児童生徒が、南小学校から一関小学校に移りますと、南小学校と一関小学校の学校運営自体にも影響をおよぼしてきます。そして、もし、学区を一つにするとなった時に、兄弟がいて、そのお兄さんが一関小学校、弟が南小学校というような問題も出てきますので、そのような課題を解決しながらとなりますと、やはり数年というような時間がかかるのではないかというふうに、今現在では考えているとこ

ろでございます。

○教育長 そんな状況でありました。

○桂島委員 その関が丘地区で、学区が統一されていないことですごく不利益というか、デメリットという部分が多いのかどうか、今までどおり、確かにその同じ地域で、こっちとあっちというのは、やりにくいのかなとは思いますが、先ほど言ったように、その学校の児童生徒数の問題にもなってくると思います。先ほどの兄弟の話になると、ある年から、やはりもうこちらの方というふうにしていかないと、兄弟がバラバラになるといって、やはり数年かかるというのはそのとおりと思いますが、実際的にはその地域からは、どうしてもという強い要望がすごくあるというわけでもないのでしょうか。

○教育総務課長 議員と市民の懇談会の議事録を読ませていただいたのですが、そこには一つになればいいなというようなニュアンスだったかと思います。地域協働体から見れば、いろいろな行事だったり何かをする際に、PTA組織が二つあるというのは、やはりなかなか運営しにくい面があるのかなと思います。一つになっていけば、その方が、何かと、いろいろな行事とかやりやすいという面があつての意見ではないかというふうには見ておりました。

○教育長 非常に難しい問題であります。

もう一つ報告させていただきますと、実は大東地域の中学校の統合の時にですね、前からちょっと指摘されていたのですが、小学校から中学校に行くときに、具体的に言えば大原地区の小学校を卒業して、中学校を別の学区の中学校に行っているというのが、かなりの数に上っております。これについて教育委員会は、許しているのかという質問があったわけです。今の教育委員会の中での学区、学区については、住所でもって基本的に分かれて、学校を決めて、そこに行ってもらうことにしている、それが大原則であります。特別こういう場合には、その学区じゃないところに行けますよというのを、10項目ほど作っております。これはホームページに載っているのですが、その中には例えば、新しい学区の場所に転居したけれども、小学校を卒業するまでは今の通学している学校に行かせてほしいとか、こういうのは許可しているんですね。そういうのが10項目ほどあります。ただ、部活動を理由に、そちらの方に行くというのは、許可しておりません。10項目の中にはありません。どうしてもやはり、その中学校で部活動がないので、そこに行きたいという時に、現実としては、住所を移して、実際にはそこに住まないで、今住んでいるところから通ういうことを、少なからずいるという実態があります。ただ、住所を移されると、基本的にはそこに住んでいるものとしてこちらも判断しております。それについて、見張ったりということはしませんので、それが現実にあるということは耳にしておりました。そういう指摘もされたものですから、今年の6月、それからつい先週に、そういうのは認

めませんという通知を、小学校6年生に出しております。そして、今回は小学校5年生と6年生の保護者に出しましたので、それで一つの抑止に、理解と抑止につなげられればなというふうに思っていますが、非常に難しい問題だなというふうに思っております。

市民の中には、部活動もそういう理由に入れていいのではないかという考えの人もいますが、中学校の校長、小学校の校長とも意見交換する中では、それをやり始めたら学区がぐちゃぐちゃになってしまうという意見があったり、そこは今の段階ではそういう方向で行こうとしております。非常にやはり難しい問題です。先ほど報告にあった地域部活動とか合同部活動という考え方が文部科学省から出てくると、なおさら部活動の問題というのが非常に難しくなってきますし、部活動が任意制であるという話も、国の方では随分アピールしていますので、そういうことも含めると、非常に難しい部分がありまして、現状とすれば、そういう学区はきちっと守って欲しいという通知を出したところであります。またこれについては話題とする機会があるかもしれません。

○教育長 行事報告について、そのほかよろしいですか。

それでは行事予定につきまして、お願いします。教育総務課長。

○教育総務課長 それでは、私の方から報告させていただきます。

(説明)

○教育長 最初に教育委員会の定例会、1月27日ということの提案であります、よろしいでしょうか。

(「はい。」の声あり)

○教育長 それでは予定に入れいておいてください。よろしくをお願いします。

そのほか皆さん方から質問ありませんか。

はい、千葉委員。

○千葉委員 1月7日の臨時中学校長会議について、臨時ということは何か特別なことがあったということですか。

○教育長 学校教育課長。

○学校教育課長 こちらは来年度を見据えまして、合同部活動はどういうふうにしたらよいかとか、今後の地域部活動の在り方について、ご意見をいただくということで、今のうちに話し合いをした方がよかろうということで設定させていただきました。

○教育長 たまたまではありますが、実は、教職員五、六百人の講演会を予定していたんです。毎年やっている研修講演会を予定していたのですが、コロナのこの状況ではできなくなって、それで、先ほどお話をいただいた部活動関係について意見をもらうこととしました。特に、合同部活動については、現在でも大会に出るため合同チームを組んでおりますが、実は先ほど言った学区の問題とも関わって、例えばの話ですが、室根地域には

室根の小学校には、東も西も野球のスポ少が盛んに結構行われております。ところが、中学校に野球部がないんです。サッカー部しかないという状況で、その子たちが実際に千厩中学校に住所変更で来ているケースがあったりと、こういうケースについて、文科省でも合同部活動で日常的にできないかというのは、この間の9月1日付けの中に載っております。市内でもそういうことができないかということ、やはり検討しなければいけないなと。

つまり、帰りの会が終わったならば、その子を、例えば保護者が都合がいいのであれば乗せて別の学校の部活動に参加させるという道も、考えてもいいんじゃないかということなんです。ただ非常にやはりいろんな問題がありそうでありますので、こういうことについて、やはり中学校の校長先生方の意見を聞きたいということです。

あとは、大東地域の中学校が令和6年度に統合の予定ですが、それぞれの地区での説明会の時にも、ぜひ統合前から一緒に練習させたりというのはできないかという意見もいただいております。

ですから、そういうことができないかどうか、特に大東がモデルケースにならないかということも含めて、ちょっと検討したいというふうに思っております。

ただ、一番問題なのは、平日は送迎の問題がありまして、これをスクールバス等を出すことはまず不可能ですので、全体にそういうことできませんので、結局保護者に頼らざるを得ないということになると、いろんな難しさが出てくるだろうなど。ただそんな話し合いで取り組み進めていくということでもあります。

そのほか何か質問ありますか。よろしいですか。

○教育長 それでは、行事予定につきましては以上とします。

3番に入ります。

その他(1) 令和2年度学校教育政策の重点について（健やかな体）

○教育長 その他、(1)令和2年度学校教育行政の重点について、健やかな活動につきまして、学校教育課長から説明願います。学校教育行政の重点についての、今回が8回目、最後ということでもあります。

○学校教育課長 健やかな体ということで、今回が8回目ということでもあります。

（説明）

○教育長 はいそれでは、今説明がありました中身について何かご質問、ご意見等ありましたらお願いします。

はい、佐藤委員。

○佐藤委員 運動習慣のところで、運動時間自体は、全国的に比べて多いということで、

少ない方の割合が、パーセントが少なくなっておりますので、全国的規模に比べて、運動量の多いお子さんが、市内の方が多いのかなと思います。それに対して、この肥満率は高いというのはどういったところが原因というふうに考えたらいいか教えていただきたいと思います。

○教育長 学校教育課長。

○学校教育課長 おっしゃるとおりで、運動量は比較的高いように読み取れますが、このとおり肥満傾向の出現率が高いと、いろいろこちらも探っているところがございますが、一つはスクールバスの利用者が多いからではないかということで調べてみましたら、スクールバス利用者の児童生徒の肥満割合が15.6%、利用していない児童生徒の肥満割合が13.0%、若干スクールバスを利用している児童生徒の方が肥満傾向にあるということでございます。

今、一つはこのようなところもありますが、今後、中学校の例えば文化部の割合、入っている生徒の割合が増えてきていることとか、いろいろなところを今後も見えていかなくてはいけないかなと考えております。

よろしいでしょうか。

○教育長 これはずっと課題なんですけど、なかなか改善していかないというか、特別な取り組みをしているわけではありませんが、呼びかけとか資料提供とかさまざまやっておりますが、なかなか改善しないのが現実です。

岩手県も実は肥満が非常に今高くてですね、都会に比べて歩くという大人の習慣も非常に少ないので、そういうことも影響してるのかなと思いますが、非常に難しい部分だなと思っておりました。

再来年に体育関係の研究大会が、実は一関で予定されております。花泉地域の校長の中にも陸上関係の非常に前向きにいろいろ研究されてる方もいますので、助言をいただきながら取り組んでいきたいと思っております。

その他いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、健やかな体の説明については以上とします。

その他(2) 一関市教育振興基本計画後期事業計画の策定について

○教育長 (2)一関市教育振興基本計画後期事業計画の策定につきまして、説明願います。

教育総務課長。

○教育総務課長 資料のナンバー4をご覧くださいと思います。

(説明)

○教育長 全体の部分につきましては、前の方に資料があると思いますが、それが現在の

今までのところの計画であります。あとは最終、このあとの予定はどのようになっていますか。もう一回確認させてください。

はい、教育総務課長。

○教育総務課長 1月14日に3回目の懇話会が、外部の関係者の方々からなる組織でございますが、そこにパブリックコメントの報告と、あと最終案に対する意見をちょうだいしまして、それを修正し、次回の教育委員会定例会に最終案として提案させていただく予定としております。

本日、委員さんからちょうだいた意見も盛り込みまして、最終案に修正したいというふうに考えております。

○教育長 そうすると、今日と次の教育委員会に合計2回のところで委員さん方から意見をいただければいいなというふうに考えておりますので、一つ一つ説明はこの間概略の部分だけ説明させていただきましたので、全部の説明は今日はする予定はないですね。

○教育総務課長 中身を前回見ていただいた中で、お気づきの点がございましたら、ちょうだいできればと思っております。

○教育長 ということで、今日と1月の教育委員会議ということでお願いいたします。それでは、このことについて何かご質問等ありますか。

はい、桂島委員。

○桂島委員 先ほどのパブリックコメントのほうで、研究校に指定されると先生方の長時間勤務の原因になって負担が増すんじゃないかというお話があったということですが、そもそも研究校に指定される意味というのは、多分、教育の場であったり、研究してよりよい現場にするというのを目的にするための研究なのかなと思うので、それを、このコメントを見るとマイナス要素がすごく多くて、負担が多いから5年間はやめたほうがいいのかという話があるんですけど、本来は、現場を良くするため意欲的に研究というのは進めるべきじゃないかなと思うので、先生方の意識、5年間やらないというふうに、例えば決めたとして、そのあとじゃあやりますよと言っても、5年間やってないものをいきなりまた研究に対して意識を持ってくださいと言っても難しいのかなって思います。モチベーションを保つ上でも、果たしてこの休止というのが、いいのかないというのが疑問に思った点と、あとはやはり、先生たちがマイナス要素でとらえるのではなく、自分たちの現場を良くする、教育のところをよくするというふうな観点でいけば、積極的に本来であれば先生たちが手挙げしてやらせてくださいという言う現場であればいいのかと、理想論ですけど。それでこの5年間休止というのが、どうなのかなとちょっと思ったところです。

○教育長 これについてコメントしませんでしたでしたが、学校教育課長、今の部分につきましてはどうですか。

○**学校教育課長** 5年間という長さにしても、学習指導要領が10年で変わるというのが通常でございますので、その半分を何も研究しないで過ごすのが、やはり難しいのかなというふうに捉えておりました。

また、子どもたちもどんどん変わっていきますし、学力の捉えも変わっていくということ。あとICT等の新たな必要となるものも入ってきますので、教員の研修とか、そういうのも含めまして、さらに具体的、実践的な研究というのが求められていますので、やはり必要なものではないかなと考えております。

○**教育長** はい。実際、昔は研究校に指定されると、分厚い冊子を作ったんですが、今は教育委員会からそういうのは作らないようにということで、今は大概4ページもしくは8ページの綺麗な版になったリーフレットを作って、それでまず終わりという形にしたり、あとは時間をやたら掛けないようにとそういう働き方の部分の留意事項もふれながら、研究を進めてもらうことにはしております。

ご意見として承りますけども、研究指定については予定どおりやっていくということになると思います。

○**教育長** 部活動の方のこの意見について、学校教育課長コメントをお願いします。

○**学校教育課長** 基本的に県の出しました方針については、これは参考となるものであって、これを受けて市町村の考えで、市町村の方針を策定するものと考えております。

それで、県の中で含まれていて、市の方にはなかったものが、いわゆる部活動全員加入制の部分をおの方は指摘されているんだと思いますが、これまで説明しておりますように、地域の事情、また学校の事情、そして校長先生方の思いであるとか、そして生徒の願いとか、そういうのも踏まえて、設定すべきものであろうと考えておりますので、慎重にそこはやっていきたいと思っております。いずれ、自由化の方に行くのかもしれないけれども、焦らずに状況を見ながらというふう考えております。また最後に部活動に参加する生徒が少なくなれば、教員の負担軽減に繋がるというお考えのようですが、こうではないというふうには我々は考えております。

以上でございます。

○**教育長** ということ、あと年度が変わって、年度を変えて置き換えただけではないんですが、岩手県以上に毎年変えて出しておりますので、現状の認識力がちょっと違う部分は、この中にもちょっとあるところでは。

これ以外にも、教育振興基本計画の中でご意見等ご質問等あれば、よろしいですか。

伊藤委員。

○**伊藤委員** どうしても私が理解しにくいのが一つあります。

部活動のことですが、教職員の働き方改革についてですが、私が現職のとき、或いは

ここにいらっしゃる千葉委員さんも現職のときは、部活動への指導に関しては情熱を持って、教育課程時間の終わりの時間をそんなに気にしてなかったような私自身はそうだったですね。結局何かというと、子供に対する教育、つまりその部活動をとおして、やはり人間教育をするんだと、そういう強い教育心情とか、或いは教育に対する熱意が強かったような感じがします。このようになってきたのは教職員の福利厚生、教職員の資質も変わってきていると思いますけども、福利厚生の部分もあって、何か真綿でくるんだような形になってきているのがすごく私は残念だなと感じます。もう少し教員の意識というか、教師としての思いとかの中で、強いものがあれば、こういう働き方改革に対してどうのこうのというのはないような感じがするんです。いずれ全体的にそういうふうになってきているのが、すごく残念だなっていう感じはいたします。

できれば教師としての資質を少し高めていただけるような研修会、講習会があればいいなと、そういうふうに感じます。

○教育長 具体的な部分として、教育振興基本計画の中に盛り込むのは、ちょっと難しいのかもしれませんが、そういう考え方というのも大事な部分でありますので、そういうことを踏まえながら対応していきたいなと思います。

そのほかいかがでしょうか。

桂島委員。

○桂島委員 ICTの方はデジタル教材使うということで、若い世代の先生方であれば、いろいろコンピューターに触れる機会が多いので抵抗ないかと思うんですが、経験豊かな先生たちが多分ちょっとアレルギーというか使い方で、今までの授業のやり方と乖離があって、なかなかイメージが持てなかったりと、ストレスが増えるだろうなと。というのは、例えば教育現場に限らず、病院であれば、電子カルテの導入の際、今まで紙カルテだったものが電子カルテになって、今までパソコンに触ったことのない世代の50代60代の方々が、入力しなきゃいけないということで、すごく看護処置以外のところにすごくストレスを持つというのが医療現場でもありますが、流れはもうどうやっても電子化にしていくという流れになっているので、教育現場でも、経験豊かな先生方がそのデジタル教材によってストレスをもって、今までの自分の教育の仕方を考える機会にもなると思いますし、否定されてるみたいに考えて、メンタル的に負担が増える可能性があるので、働き方改革とともに、メンタルの方のフォローもちょっと取り入れてやっていただけたらなと思います。例えば、大企業であれば、残業時間60時間以上であれば必ず産業医と面接をするというのがあったり、あとはストレスチェックというテストがありますが、教育現場においてそういうものが、体制がとられているのかどうか教えていただければなと思います。

よろしく申し上げます。

○教育長 学校教育課長。

○学校教育課長 まずストレスチェックは実施しております。また状況によって産業医からもご指導いただいて、進めておりますので、メンタル面のフォローは本当にまさしくそのとおりで、それで休んでいる職員もいますので、今後も大事にしていきたいなというふうに思っております。

またそのベテランの先生がそういうICTに関わる機会が増えてまさに本当に、今後の課題が、研修会をいかに組んでいくかっていうところも、我々としては持っているところでございました。

○教育長 ICTについては多分、年齢層の上の方々のストレスは、それなりにやはり多分に出てくるだろうし、授業の中にそれを取り込んだときに、慣れるまで一時的にちょっと混乱はやむを得ないかなという感じは持っております。

現実問題例えば、特に小学校の授業がそうですが、形がきちっとなっていて、うまい先生の授業というのは本当に見事なもので、短時間でピシッとやってしまいます。だから、それにICTが入ってくるとかえってそれが壊されるというか、それはそう思っている人もいるし、実際そういう部分はICTの専門家から言わせると、そういう見方はやはりあるそうであります。もう形づくられたのに無理にICTを入れることによって、かえって形が崩れていくというか、やはり混乱は一時やむを得ないかなという感じがします。

ただ使っていかなければ駄目な部分はやはりありますので、前に、文部科学省のICT担当の課長の講演を聞いたことがあります。ICTの機器を使って授業のうまい先生の共通した点があるということでした。何が共通かという、ICTを使わなくても授業が上手だというのが共通だそうです。結局、そういう先生はICTも上手に使うということですね。

だから、授業自体をやはり良くしていこうという部分が根底にないとかえって引き回されてしまうという部分もあるというふうに思っております。

ただ、いずれ一時的にはちょっと混乱はあるかもしれませんが、できるだけスムーズにいくように私たちも努力していきたいなと思っております。

その他何かありますか。

それではまた次回もありますので、見ていただいて次回に気づいた点を指摘していただければいいなというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

その他(3) 一関市立図書館振興計画後期サービス計画の策定について

○教育長 それでは、(3)一関市立図書館振興計画後期サービス計画の策定につきまして、説明願います。

一関図書館長。

○一関図書館長 それでは私から、市立図書館の振興計画後期サービス計画の策定について説明を申し上げます。

(説明)

○教育長 まず、このパブリックコメントにつきましては、内容的に要望的な内容が強いということでありましたので、実際の計画の本文自体を修正する必要はないかなというふうな部分でありましたが、図書館振興計画の後期サービス計画について、ご意見も含めてこのパブリックコメントも含めて何かありましたらよろしくお願いします。

はい、佐藤委員。

○佐藤委員 12ページの図書館運営の目標に数値目標というのはございまして、目標としては貸出数と登録者数を数値目標にされているかと思うんですけども、例えば、数え方が難しいかもしれませんが、図書館を何人利用しているか、或いは、その人は資料の閲覧で利用しているかもしれませんし、新聞をそこで閲覧そういった貸出ではないサービスもあるかなと思います。あと、例えば総蔵書数が、11ページの資料で見ますと、平成26年度が75万冊から、令和元年度で93万冊になっていますが、例えば、今度の、最終的な次の長期目標では、総蔵書数を何冊にするのか。蔵書数というのは、図書館としては誇るころかなと思いますので、そういった数値、仮に貸出点数だけで達成できなくても、そういった図書は何冊にしていく、利用者を何人にするというのは目標値があってもいいのではないかというふうに思いましたので、最終的にそれを入れるかどうかは、ご検討いただければいいと思います。そういうふうに感じましたので感想を申し上げたところです。

○教育長 図書館長、何かコメントありますか。

○一関図書館長 この図書館振興計画につきましては、平成28年度から令和7年度までの10か年の計画ということで、今回に関しましては6年目から10年目までの後半の部分の具体的なサービスを定めるというのが今回の見直しの主な目的となっておりました。

基本的には、12ページに設けております3項目の数値目標につきましては、平成28年度に策定をいたしました令和7年度までの向こう10年間に目指すべきものということで定めたところがございますので、基本的にはここをまず達成を目指して参りたいということの基本としております。

なお、蔵書に関してのご意見に関しては、佐藤委員さんおっしゃるとおりで、やはり蔵書の充実というのが貸出の方にも繋がってくると、非常に重要だということはおっしゃるとおりだというふうに認識しております。ただ目標の中に入れるかどうかということに関しましては、今回の計画の中に入れるべきか、或いは、これを踏まえた次の10か年の計画の中に改めて検討していくべきか、その辺に関しましてはこの後期サービス計画の

内容を進めながら考えていく必要があるのかなとただいまの段階で捉えたところでございます。

○教育長 よろしいですか。

この部分、例えば今のような資料を、数値目標とは別にわかるように提示することも可能ですね。例えば、人数とか、それはまた、やはりこういう中身ではないのかな。

○一関図書館長 利用者数そのものに関する統計的な数値を取っているところではございますが、直接的にはこの今現在の目標の部分とは別に、中には入れ込んでおらない関係もあります。数値としてはまとめておりますので、毎年度、図書館協議会等での説明報告はさせていただいているところでございます。

○教育長 はい、わかりました。

そのほかありますでしょうか。

これも1月の教育委員会議で意見いただく機会がありますね。先ほどの教育振興基本計画と同じように、1月にご意見をいただければなと思います。

その他(4) その他

○教育長 それでは、(4) その他であります。

事務局から何かありますでしょうか。特にありませんか。

委員さん方から特に何かありますか。

よろしいですか。

○教育長 今日は1時間ほどで終わりましたので、ご協力ありがとうございました。

それでは、以上で第214回教育委員会定例会を終わります。

ありがとうございました。

9 会議録作成者

教育長 小菅正晴

10 会議録署名者

教育長

委員

委員

委員

委員